

東住吉区地域福祉サポート事業にかかる事業評価結果

(1) 事業の実施状況の評価

評価	左記の理由
3.2	地域福祉サポーター連絡会を可能な限り実施し、各地域の活動状況を情報共有するなど、事業全体としてコロナ禍の中でも工夫しながら取り組まれている。

(2) 事業の実施体制の評価

評価	左記の理由
3.2	事業遂行に向けて構築されている実施体制は適切に整備されている。

(3) 目標の達成状況

評価	左記の理由
3.2	《「東住吉区地域福祉サポートセンター」の運営について》 ・地域福祉サポーターにスマートフォンを配布し、LINE 講座の実施や LINE グループの構築などは今後の円滑な事業遂行に期待できる。 ・地域相談窓口については、継続した広報活動が必要である。 ・アンケート集計のなかで、回答者の年齢や地域といった属性のクロス集計などを行うことで、より状況把握することができると思われる。 ・アンケートについて、実際に相談されている方からは評価されているが、普段利用していない方にも焦点をあてた調査をする必要がある。また、活動の把握だけでなくアンケート等をどう活用するのか検証する必要がある。 《「地域相談窓口」の運営について》 ・窓口利用が増えており、コロナ禍でも相談件数目標は十分に達成できている。 ・活動月報の結果をどう活かしていけるか、また、地域差が大きい点をどう解消していくのかが今後の課題であり、次年度以降の事業展開につなげてもらいたい。 《「区・区社協との連携」について》 ・専門学校との協働は、次の福祉の担い手とのつながりづくりとなっており評価できる。また、他の地域での活動につながる可能性がある。 《「見守り相談室との連携」について》 ・コロナ禍においても見守り相談室との連携は概ね良好実施できており目標を達成できている。 ・連携には地域差が見られるため、その差をどう解消していくのかが課題である。 《「生活支援コーディネーターとの連携」について》 ・コロナ禍でも生活支援コーディネーターと連携し、居場所の新規立ち上げもできており、努力している点は評価できる。 ・新規で居場所づくりが行われ、横のつながりで他の地域にも広がりが見られていることは評価できる。

※評価指標については別紙を参照

委員の評価

(1) 事業の実施状況の評価

評価点	X 委員	Y 委員	Z 委員
	3.0	3.5	3.0

(2) 事業の実施体制の評価

評価点	X 委員	Y 委員	Z 委員
	3.0	3.5	3.0

(3) 目標の達成状況

評価点	X 委員	Y 委員	Z 委員
	3.2	3.225	3.15

主な意見等

- ・地域福祉サポーターへのライン講座を実施し、ライングループ作成による効果的な情報共有体制を構築したことや、区内の専門学校との連携・協働による見守り活動を実施できたこと、また、生活支援コーディネーターとの連携によって居場所の新規立ち上げができたことなど、コロナ禍においても工夫しながら事業実施できている点は評価できる。
- ・今後の事業実施につなげるため、活動月報やアンケートの結果をどう活用していくのかを検証する必要がある。また、14地域での事業実績に地域差があり、その地域差をどのように解消していくのが課題である。